

埼弓連だより

第

平成 28 年 5 月 31 日

57 号

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼 250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

埼玉県弓道連盟

新年度を迎えて

会長 本橋 民夫

平成 27 年 4 月の役員改選からはや 1 年が経ちました。昨年度は、〔関東北〕指導者育成講習会、関東高等学校大会、国体関東ブロック大会と大きな行事がありましたが、お陰様ですべての行事が滞りなく終了いたしました。有難うございました。今年度の大きな行事といたしましては、〔関東北〕地区指導者講習会、三県選抜大会・範教練士研修会、東日本高校生大会が予定されております。本年度も計画的に諸準備を行い、円滑に進めたいと思います。ご協力の程よろしくお願い致します。

また、昨年度は埼玉県の高校・大学で弓道に励まれた梶田隆章先生が 2015 年度のノーベル物理学賞を受賞されました。同じ弓道をする者として大いなる喜びです。更に、梶田先生の高校時代の弓道部顧問をしていただいた内河輝臣前埼玉県弓道連盟副会長のお計らいで、弓道関係者との座談会も実現しました。当日は、梶田先生が在学中にともに弓道に励んだ川越高校弓道部OB、埼玉大学弓道部OB、埼玉県弓道連盟の関係者が出席して 2 時間ほど弓道談議に花を咲かせ、梶田先生の「また弓を引きたい」というお言葉とともに弓道への熱い思いを伺いました。今回の「埼弓連だより」で特集していますので、御覧になって頂きたいと思います。

さて今回は、「弓道誌」新年号で全日本弓道連盟の柴田猛会長が述べられたことを取り上げたいと思います。まず今年是非取り組んで欲しいテーマの一つとして「的中率の向上」を挙げておられます。「審査などであまり的中率が良くない。的中至上主義ではないが、【中てる】ではなく、【中る】射の技法に取り組んで欲しい。」と仰っておられます。手先の射ではなく、弓道教本に則った正しい射法を学ぶということだと思います。

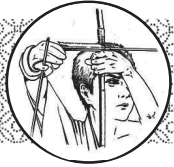
正射必中を目指し、その結果として埼玉県も



優秀地連得点上位の常連になれば良いと思います。

もう一つのテーマとして、「人生を豊かにする弓道であって欲しい。」と仰っておられます。平成 24 年度から中学校で武道が必修化されました。この泰平の時代に中学生に武道を習わせる意義は何でしょうか。今我々が武道・弓道を学ぶ目的、目標は何なのでしょう。年齢、経験年数、その他の違いにより弓道を学ぶ目的、目標は異なると思います。しかし、最終的に目指すものは同じだと思います。それは、勝敗・的中だけでなく、どう生きるかということを追求することだと思います。最初は、興味本位で始めた弓道であっても次第に的中を得るために姑息な考え方をしたり、姑息な手段で中を求めたりするものではないということに気付いてきたと思います。

私は、射を通しての生き方や考え方は、道場で先輩方の態度の中から学ぶことが多くありました。真剣に修練される姿や時には難点を克服しようと苦労されている姿からいろいろ教わりました。後ろ姿で教えていただきました。それらは言葉で教わるのではなく、自ら感じて身に付けるものだと思います。このような経験から、私も時には道場での自分の態度を客観的に見て、いろいろ反省し、気を付けるようにしたいと思います。



専門委員会だより

総務委員会

埼玉連からの情報発信を豊かに

委員長 浅野 光子

平成27年度より総務委員長として埼玉連の業務の中核を担うことになりましたが、久しぶりの役員業務であり、IT化の時代に多少戸惑いながらの1年間でした。27年度は国民体育大会関東ブロック大会が本県で開催されたことに伴い、総務委員会の業務が課題解決というより、決められた任務をこなすということにとどまったきらいはありますが、それでも埼玉連だよりの企画・特集ページの充実、ホームページへの掲載準備、アンケートの実施等、新しい試みにも積極的に取り組むことができました。

これまでの埼玉連だよりの発行部数は会員数にも及ばないもので、27年度に初めて実施した埼玉連だよりに関するアンケート調査にも「手に入らない」等の意見が寄せられていました。こうした現状を変え、埼玉連からの情報発信をより豊かにしたいと取り組んだのが、特集記事の充実と埼玉連だよりのホームページへの掲載でした。

折しも、川越高校・埼玉大学で弓道部に所属して弓道でも活躍した梶田隆章先生がノーベル物理学賞を受賞したことが、各メディアで大きく取り上げられました。埼玉連としても梶田先生とかつての顧問・同級生・先輩・後輩等を交えた座談会を行い、埼玉連だよりの特集記事といたしました。こうした記事や松沢岳先生の弓道講座がホームページに掲載されることで「埼玉連だより」が若い世代の目に触れる機会が増え、結果として弓道への関心が高まってくれば、永年の課題である会員の拡大、特に若い世代を弓道の世界に迎えるという課題の実現に向けた第一歩にもなると考えています。

また、各支部・道場ごとのホームページも次第に増え、他県との比較においても埼玉連の取り組みは先進的なものとなっています。ホームページの作成には専門の知識と技能が要求されますので、すべての支部・道場で一様に取り組むことは難しいことですが、少しずつ埼玉連からの情報発信を豊かにしていくことで、弓道の普及・振興につなげていきたいと思えます。

指導委員会

講習会に望むこと

委員長 飯島 千代子

指導委員会は、今年度も弓道教本及び副読本に基づいた基本の徹底を目標としております。

- 正しい歩き方はできているでしょうか？
右(直角・斜め)に方向を変える場合、右足は「踵」からでる。
左(直角・斜め)に方向を変える場合、左足は右足の「踵」からでる。
入退場の時、本座で方向を変えた時に停止してご自身で確認してみてください。やっているつもり・できているつもりが意外とできていないものです。
- 跪坐及び開き足を正しくしましょう。
膝を生かすとは、膝頭を上げるのではなく腰の線をつりあげるようにすることです。教本第一巻p69にあります。
開き足は教本第一巻p77にありますので図のように行ってください。
- 胴造りの際、弓の本弭は左膝頭に置くことを確実に行ってください。
膝の内側にある人・低い人は体の均整がとれた静かな胴造りはできません。
教本第一巻p108に書いてあります。
- 正しい的のねらいの確認
そして、正しい矢束をひき納めることをして、的中につなげましょう。
- 離れて弓の握りがおちる(下がる)人を見ます。
正しい手の内と働きができればそのようなことはありませんが、手の内一生ともいわれるほど難しいものですので勉強しましょう。
- 矢番え動作の質問がありました。教本第四巻p240～p241の通り行ってください。
具体的には、矢を持った右手を、左拳をこすところまで送りだし、目は矢に添って羽根を見て(甲矢・乙矢の検別)甲矢を左手の人差し指と中指の間にはさみ、顔をもどし、右手は矢に添って筈を持ち(このとき顔も手に添って動きますが、目づかいを主とする)矢を一度に送って矢番えします。二度に送り込む場合もあります。

以上の項目を念頭におき、講習会等に望んで頂けますようお願い致します。

平成 28 年度大会要領での変更点など

委員長 岡芹 喜行

競技委員会から 4 点連絡します。

1. 県弓道大会要領の主な変更点

大会ごとの開催通知でも別途お知らせしますが、あらかじめ次の三つの大会のチーム編成基準をご承知おき下さい。

(1) 9 月 4 日の県勤労者選手権の参加資格

- ①勤労者の判断は支部長が行う。
- ②原則は同一の会社・官公庁でチーム編成（異なる支部でも編成可）
- ③例外として、同一道場での編成可
- ④同一支部内で別道場でのチーム編成は、個人戦のみ参加を認める。
- ⑤同一会社・官公庁以外での別支部との編成や個人単独での参加は認めない。

(2) 9 月 25 日の県民総合体育大会

- ①支部代表の選抜は原則市町村名とする。（同一市町村複数チーム可）
- ②同一支部内の他市町との編成可
- ③チーム内の大学生（一般会員）は 2 名以内とする。

(3) 3 月 12 日の全日本勤労者予選

複数チームへの同一選手のエントリーは認めない。（選手登録と別チームの補欠でも不可）

2. 大会ごとの開館時間と受付開始

- (1) 開館時刻…試合会場の入場できる時刻です。会場準備への協力をお願いします。
- (2) 受付開始…会場準備後受付を開始します。

3. 競技規則の改定（28.4.1 施行）

遠近競射の判定で、的枠ギリギリに入った矢と、的枠をたたいて外れた矢の判定について、競技規則上に補足説明が追加されました。
*たたき矢は、的面にたたき矢の板付の痕跡を認めれば、的に接している矢よりも的中心に近いものと判定できる。

4. 大会申込期限後の参加枠設定

大勢の会員の参加を確保するため、申込期限後の参加枠を数名設けておきます。それぞれの大会ごとの申込期限経過後に都合がついて参加可能な場合には、大会要項中に記載の競技副委員長まで、支部長を通してご連絡ください。

岩手国体に向けて

委員長 瀧上 三郎

昨年 11 月から 2 月まで 4 回国体選手育成会を実施し、本橋会長はじめ小宮、岡芹、岡田各先生より基本の確認、修正すべきこと、気持ちの持ち方自信をつける稽古量等の指導をいただき終了しました。

そして第 1 回国体選手選考会を 3 月 20 日に参加者男子 17 名、女子 14 名で行いました。全体的に見て近的の的中率、遠的での得点率に波があり、やや不満も残りましたが新顔の若者も多く参加してくれました。

第 2 回、第 3 回の選考会では高いレベルでの戦いを期待し、成績と射の内容等を考慮の上、岩手国体に進む代表選手男女各 3 名補欠 1 名を決定します。

その後の錬成会での取り組みは、昨年の屈辱を晴らし勝ち進むためのメンタル面にも力を入れ、ねばり強くあきらめない、プレッシャーの中でも力を発揮できる選手強化を行います。

山梨県甲府市での第 71 回国体関東ブロック大会に成年男子女子、少年男子女子 4 種別が揃っての予選突破をまずは第一目標とし、岩手国体に出場して活躍出来るように錬成していく決意であります。

また代表になった選手の所属道場の先生方、弓友の方々にはプレッシャーに負けない稽古を積み上げプライドを持ち、本戦で力を発揮できるよう練習を見守り、応援と御協力をお願いいたします。



審査委員会

審査委員会から

委員長 古泉 利昭

はじめに、平成 27 年度の県内審査会もお陰様で無事に終了いたしました。審査にご協力いただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

1. 平成 27 年度の審査受審の概要

さて、27 年度の審査受審状況ですが、県内審査では、地方審査が、2,942 名（前年比 150 名増）、連合審査が 167 名（同 8 名増）となっています。

また、他地域実施の受審では、地方審査が 3 人（同 1 名減）、連合審査 545 名（同 91 名増）、学生・教員特別審査が 240 名（同 27 名増）、中央審査が 1,146 名（同 37 名減）となっており、受審者合計では、5,043 名（同 238 名増）となっています。

また、合格の状況ですが、全体の合格率（総合格者数／総受審者数）は 43.7%（前年比 0.9 ポイント減）と昨年よりわずかな減少でした。内訳は、地方審査が、1,945 名（前年比 4 名増）連合審査が、48 名（同 4 名増）、学生・教員特別が 165 名（同 40 名増）、中央審査が 47 名（13 名増）でした。

2. 全弓連の 28 年度主催事業の実施にあつての関連規程の制定・改定等について

標記の制定・改定が発表されましたが、審査関連の制定・改定の項目をご紹介します。

- (1) 平成 28 年度からの中央審査会・実施について
- (2) 審査規程及び内規（改定版）／新旧対比表
- (3) 審査関連規程・別表 1－審査料・登録料
- (4) 〃 ・別表 2－審査における行射の要領
- (5) 審査関連規程・様式第 11 号－審査結果開示申請書
- (6) 審査統一基準（級位および初～五段）
- (7) 地方審査会・連合審査会 学科試験問題
- (8) 立射の作法

なお、(2)（新旧対比表除く）・(4)・(6)～(8) 番については、全弓連のホームページに紹介されています。

また、(1)・(7)・(8) は支部長を通じて各連盟・道場にお知らせしました。

女子部

女子部だより

部長 鷹巣 光子

女子会員の皆さん 28 年度より、今まで行ってきました 2 段以下・3～4 段の方の女子部主催研修会を廃止することになりました。1 月、2 月の寒い北風の吹く中、大勢の方の参加を頂きましてありがとうございました。皆さんが着付けない和服を着て真剣に纏さばきに取り組んでいる姿や、弓と矢を組んで纏をかけるのに四苦八苦して、ガシャ、バシャンと落としてしまいパニックしているご様子・纏が上手にかからず袖を打ったりと大変でしたが、慣れるに従い上達の速さに驚いたり和気あいあいとした女子部研修会でした。これからは各支部の講習会の先生方をご指導して下さいと思いますので、引き続きお稽古をなさして下さい。何かわからないことがありましたら県の武道館の錬成会の時や、各支部に女子部役員が 2 名おりますから連絡していただけましたら皆さんのお役に立ちたいと思いますのでご連絡ください。

東日本女子大会が平成 30 年に埼玉県で行うことに決定いたしましたのでお知らせいたします。前回は、平成 20 年に埼玉県で行いましたので経験された方が大勢いらっしゃると思います。大会開催にあたり本橋県連会長、小宮先生始め県連の先生方、女子会員の皆様方にご協力をお願いいたします事になりますのでよろしくお願いいたします。

今年の大会は、神奈川県で催され約 1100 名の参加人数の予定とお聞きしました。多分埼玉県で行う時も 1000 人を超えるのではないかと想像をしております。神奈川県の大大会を参考に準備に入りたいと思いますので、女子部役員の方を始め皆さんの目で大会を楽しみながら運営方法も学んで来て、参考になる良い案がありましたら私共まで教えて下さい。期待しております。また 10 月に県で行う女子大会をリハーサル大会のつもりで行なって見たいと思いますので大勢の方の参加をお願いいたします。東日本女子大会は 3 段以上の方が参加となる予定ですので今始められた方でも審査を受審し 3 段合格目指して大会に臨んでください。目標に向かって頑張りましょう！！

高体連

活躍の年を振り返り更なる飛躍を期して

委員長 山田 紀之

日頃より弓道連盟の先生方には、高体連弓道専門部の活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年度の第59回関東高等学校弓道大会埼玉大会では、大変お世話になりました。引き続き本年度末に予定されております、第16回東日本高等学校弓道大会に際し、連盟より絶大なるご支援をいただいておりますことを、専門部を代表して心よりお礼申し上げます。

大会の成功に向けて、準備を進めているところですが、引き続きご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

東日本大会は、平成29年3月19日(日)、20日(月)上尾武道館主道場特設射場で行います。関東以北の15道都県の代表校が集まり、五人制、三人制の試合を行うという特別な大会です。お時間がありましたら、おいでいただき、高校生の大会をご覧いただければ幸いです。

平成27年度を振り返りますと、関東、インターハイ、国体、選抜、東日本と全ての上位大会で、県代表校、選抜チーム、個人が入賞することができたという、活躍の1年でありました。

この成果は各校顧問、部員の喜びにとどまらず、弓道専門部として嬉しいできごとでした。更にレベルアップを図り、全国優勝を目指し、お互い良きライバルとして、切磋琢磨して行ければと思います。

以前県高体連会長が、「部活動は日本の文化である。」とお話されていました。我々高校弓道部顧問は、更に日本の伝統文化である弓道の指導に携わっているわけです。二重の意味で文化の担い手として重要な役割を持っていると思います。日々の教育現場は大変忙しく、必ずしも部活動指導に打ち込める環境は整っていないのが現状です。

そうした厳しい現状の中ではありますが、教師として、弓道を通しての豊かな人間性の育成、生涯続けて行ける弓道人の育成という重要な役目を担っているという自負を持って、頑張っ参りたいと思います。

埼玉県弓道連盟と高体連との連携を深めて、

弓道発展のために、尽力して行きたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



4月13日(水)顧問総会(大宮公園弓道場)県弓道連盟会長本橋民夫先生に、御講話をお願いしました。先生ご自身の弓道への取り組みをお話いただきました。「日頃は遠い存在の会長先生が、悩みを持ちながら弓を引かれておられる身近な先生に感じられた。」と好評でした。

〈大会結果〉

●全国選抜県予選会

平成27年11月7日(土)8日(日)14日(土)
女子461名、男子440名、大宮公園弓道場

○女子団体／①春日部女子A(菊池香那、岡崎歩、川西舞奈、今彩音)②久喜北陽B(中島瑞陽、高橋詩帆、井上桃花、鈴木美里)③草加西B(三浦遙、富岡恵菜、笠水上瑠南、関根静香)④東農大三A(鷺見ひなの、江尻歩実、高岡真帆、岡野桃子)

○男子団体／①岩槻商業A(塚田大斗、金子翔太、関根直樹、上杉力)②坂戸西A(会田一真、森田涼介、栩原潤也、佐藤康多)③大宮東A(山田一都、坂本慎之介、後藤佑介、新井雄真)④東農大三A(鈴木興紀、梶野遼太郎、成川侑希、平良陸)

○女子個人／①阿部まり奈(越ヶ谷)②中野汐里(寄居城北)③田中彩希(山村学園)

○男子個人／①塚田大斗(岩槻商業)②関根直樹(岩槻商業)③栩原潤也(坂戸西)④会田一真(坂戸西)

※男女団体各1位、女子個人1、2位、男子個人3、4位(1、2位は団体出場のため繰り上げ)の選手は全国高校弓道選抜大会に出場

●第34回全国高等学校弓道選抜大会

平成27年12月24日(木)～26日(土)
宇都宮市ブレックスアリーナ宇都宮特設弓道場

○女子団体／第3位 春日部女子(菊池香那、岡崎歩、川西舞奈、西村万結)



女子団体3位合わせて技能優秀校(来年度推薦出場)にも選ばれた春日部女子高校一番右が顧問の安田やよい先生

○5人制男子団体第3位 寄居城北(小池隆志、島田翔麻、小澤賢人、多田俊介、権田祐理、大澤未来、松田佑輝)



優勝の草加西高校と顧問蓮見勇人先生



●第15回東日本高等学校弓道大会

平成28年3月19日(土)～21日(月)

宮城県仙台市民体育館特設弓道場

○5人制女子団体優勝 草加西(滝澤春菜、富岡恵菜、三浦 遙、野口早耶、笠水上瑠南、松本菜緒、下山田綾乃) 射道優秀賞 春日部女子(菊池香那、岡崎 歩、川西舞奈、西村万結、廣田香菜、高島華子、船本陽奈)

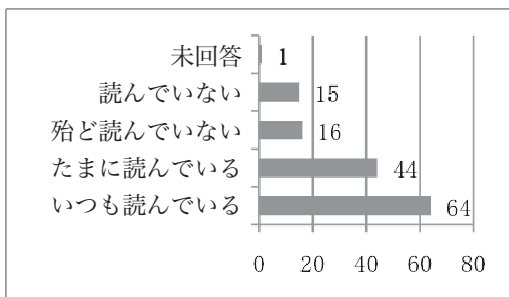
埼弓連だよりアンケート(抜粋)

- 期間：平成27年12月20日～平成28年1月15日
- 対象者：業務用会員名簿から無作為で抽出
- 対象者数：200名

- 回答方法：郵送による送付、回収
- 回答数：140名
- 回収率：70%

●読んでいるか

会員の77%は読んでいるが、読んでない会員も20%強



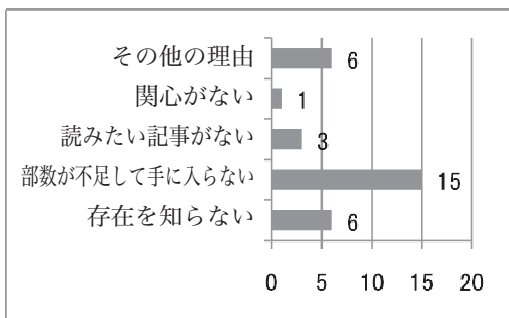
なお、ホームページ掲載については、8割以上が肯定的な意見

今回のアンケート調査では、埼弓連だよりについてだけでなく、埼弓連への意見・要望が多くありました。

会長はじめ関係者に情報を共有すると共に、これからの記事作成に役立てたいと思います。

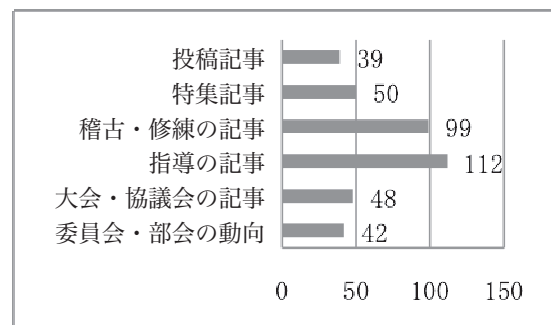
●読んでいない理由

部数が足りないが5割



●どのような記事を望むか(複数回答)

指導、稽古・修練関連の記事の希望が多い



総務副委員長 千葉 公

速報 祝 ご昇格

飯島千代子範士八段

平成 28 年 5 月 18 日に開催された、全日本弓道連盟の審議会において飯島千代子先生が範士に推薦されました。

心より御祝い申し上げます。

飯島千代子先生のお喜びの声は、次号に掲載いたします。

大会・射会入賞記録

●平成 27 年度埼玉県武道大会弓道大会

平成 27 年 11 月 22 日 (日) 169 名参加 (中学生 29 名、高校男女・一般男女各 5 名ずつ 7 支部計 140 名) 埼玉県立武道館

○中学個人の部：①関口舞香 (秩父第一中)、②栗田朱莉 (久喜市立太東中)、③青山千佳 (所沢市立南陵中)

○支部団体の部：①県央支部、②西部支部、③中部支部

○個人の部／○高校女子：①松本菜緒 (草加西)、②八須萌佳 (熊谷女子)、③島村奈月 (大宮南)

○高校男子：①成川侑希 (東京農大三)、②坂原悠斗 (慶応志木)、③島田翔麻 (寄居北)、○一般女子：①室町純子 (志木)、②武政宏美 (岩槻)、③吉田沢美 (朝霞)、○一般男子：①浅子好夫 (大宮)、②加藤睦正 (戸田)、③藤田良 (所沢)

●平成 28 年 埼玉県弓道連盟新年初射会

平成 28 年 1 月 10 日 (日) 309 名参加 (称号者 109 名、有段者 119 名) 埼玉県立武道館

○称号者の部：①岡芹喜行 (本庄)、②千葉 公 (川越)、③粕谷吉一 (所沢)、④松本瑞世 (北本)、⑤五十川英俊 (吉川)、○有段者の部：①荻原重弘 (鴻巣)、②青木 豊 (行田)、③篠原和子 (日高)、④井上 久 (川口)、⑤嶋田 誠 (ボッシュ)

●神奈川・埼玉弓道指導者交歓射会

平成 28 年 3 月 6 日 (日) 112 名参加 埼玉県立武道館弓道場

埼玉県連 40.91% 神奈川県連 38.57%

埼玉県優秀選手

室町純子 (志木) 大西いずみ (上尾) 二見富士夫 (春日部) 宮内 毅 (越谷) 高橋好照 (上尾)

●全国勤労者大会予選

平成 28 年 3 月 13 日 (日) 参加者 39 名 (13 チーム) 埼玉県立武道館弓道場

①シーケーエンジニアリング埼玉 (片山藤生男、篠原 智、山口智史)

②ホンダ埼玉 A チーム (伊藤隆司、鈴木真人、和田秀之)

③さいたま市役所 (秋元宏友、田中成美、高野 聖)

上位 2 チーム (3 位は補欠) は平成 28 年 6 月 10 日 (金) ～ 12 日 (日) に愛媛県松山市で行われる第 64 回全日本勤労者弓道選手権大会に出場

第 56 号記事修正

埼玉連日より第 56 号の遠的選手権の選手名に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

●第 66 回全日本弓道遠的選手権大会

平成 27 年 10 月 16 日 (金) ～ 18 日 (日) 全日本弓道連盟中央道場

④和田秀之

男子出場選手 和田秀之 (和光) 本橋民夫 (所沢) 平岡美昭 (川越)

女子出場選手 吉澤郷実 (啖啄) 鈴木多恵子 (吉川) 須田明江 (入間)

特集 梶田先生を囲む座談会

ノーベル物理学賞を受賞された弓道人

梶田先生が語る弓道観

「趣味でも良いから、弓道をまたやりたい」
「弓道から重要な場面での心の持ち方を学ぶ」
「若い人への発信、宣伝の必要性」

日時：平成 28 年 2 月 15 日

場所：川越高等学校応接室

(文中敬称略)



司会：梶田先生ならびに皆様、本日はお忙しい中、埼弓連の座談会企画にご出席頂きまして有難うございます。座談会を始めるにあたり、埼玉県弓道連盟会長本橋より一言ご挨拶を申し上げます。

会長：梶田先生、ご多用中のところこの座談会にご出席頂きまして有難うございます。



本橋民夫
埼玉県弓道連盟会長

この度はノーベル賞を受賞され、誠にありがとうございます。梶田先生が、高校・大学と弓道を熱心になされた記録とか写真を見せて頂きました。

中核となって弓道部を引っ張ったと伺っております。

同じ弓をやるものとして本当に嬉しく思います。

今回、梶田先生を囲んだ座談会において、弓道に関わるお話をいただき、埼弓連会員のみならず、弓道をする高校生、大学生らのモチベーションを上げたいと考えております。また、高校生や大学生で始めて途中で止めてしまう方がいらっしゃいますので、その方たちに弓道を再開していただくきっかけになればと思います。

かつてのお仲間と一緒に、梶田先生の当時のお話をお伺いできればと思います。

司会：それでは梶田先生に一言ご挨拶をお願いいたします。

梶田：川越高校、埼玉大学で弓道をやっていました。しかし今はもう恥ずかしい限りですが、弓から離れて研究をしております梶田です。今日は宜しくお願い致します。

司会：本日の座談会企画にご尽力頂いた、内河



梶田隆章
東京大学教授
宇宙線研究所所長
川越高校・埼玉大学
弓道部 OB

では、指導らしい指導は何もできませんでした。(梶田先生、笑いながら首を振る)

梶田先生と出席者のエピソード

司会：皆さん、自己紹介を宜しくお願いします。



新津雅之
川越高校教諭
川越高校・埼玉大学
弓道部 OB

先生からご挨拶をお願いいたします。

内河：私が川越高校に転勤してきたのが昭和49年、実はそれまで弓はやったこともないし、まったくの初心者で顧問を引き受けまして「困ったな」という状況でした。梶田さんが弓道部に入って卒業までの三年間、顧問とし



内河輝臣
埼玉県弓道連盟参与
元川越高校弓道部顧問

新津：川越高校の時は、部長の立場で責任を果たさなきゃという感じでやっていましたが、梶田君は自分の意思で「インターハイ」の最後のところまでやってくれたのが特に印象深かったです。大学の時は本当に活躍してくれて、高校、大学の弓道部で長い間一緒だっ

だったんですけど、今年受賞できて良かったなと思います。

益子：当時の写真を見ますと、新津君と一緒にたった8名か9名の少ない部員の中で濃い付き合いをさせて貰いまして、本当に自分で財産になっています。私自身は千葉大に入りまして、切磋琢磨して梶田君と色々リーグ戦で戦いました。梶田君は模範となるような射形で、素晴らしい弓道をされているなと感心した記憶があります。



益子俊明
川越市役所
川越高校・
千葉大学弓道部 OB

吉田：実は梶田さんとは川越高校で三年下でした。



吉田俊一
埼玉新聞社編集局長
川越高校弓道部 OB

梶田先輩よりも、後に奥様となられる鈴木先輩と立ちを組ませて頂き、いろいろな射会に出た記憶があります。今回は梶田先輩に久々にお会いできるのを楽しみにして参りました。

今でも覚えていますけど梶田さんと新津さんが二人で夏休み、春休みとか来られていて、梶田さんに弓道を教わった思い出があります。

(梶田さん首をかしげる)
脇本：埼玉大学の弓道部に入部した時、梶田先輩、新津先輩が三年生でした。



脇本 緑
地方公務員
埼玉大学弓道部 OG

柿崎：脇本さんと同じ代で、一年の夏ぐらいから、試合に出て関東大会では梶田さんに引っ張って頂きました。今は弓を引いてない休会者でありますけど、数年前から、大学のOB会と高校のOB会で



柿崎敬一
団体職員
埼玉大学弓道部 OB



山田紀之
川越総合高校教諭、埼玉
県弓道連盟常任理事
(高体連)
川越高校・
埼玉大学弓道部 OB

年二回弓を引いているところですよ。

山田：大学時代、梶田先生はよく大学の方に来て頂きました。あの時は何も解らなかったですけど、研究で山籠もりだとか(笑い)という話を断片的に聞いたことを思い出します。

今回の受賞で、高校の同期とも「あれ？梶田さんて、合宿の時に西瓜持ってきてくれた人だよな？」という話をしました。

高校時代、弓道との出会い

司会：それでは、梶田先生の学生時代の弓道の思い出ということでお話し頂きます。

きっかけはどんな感じだったのでしょうか？何か弓道をやりたい意志で入られたのでしょうか？

梶田：高校に入った時は一番小さく、ひよろひよろしていたので、とてもとても体力勝負のところではやっていけない、弓道部ならやれるかなと思いました。(笑いながら)

内河：私が一番印象に残っているのは、入った時は本当に小さくてかわいい少年だったのですが、卒業するまでに何cmくらい伸びましたか？

梶田：えっと。20センチは伸びてないんですけど、たぶん18センチは伸びていると思います。今は183センチくらいだと思います。

大学時代もちょっと伸びました。

司会：高校時代の大会成績はいかがでしたか？

新津：「市内高校王座決定戦」がありますよね。第一回は梶田君と小山君と僕のチームが優勝しました。ほら、俺達が二年生の時に、川越武道館の地下駐車場だった所に弓道場が出来て、その最初の試合をやった時に勝ったんですよ。

内河：せっかく武道館が出来たし、何か高校生に晴れ舞台を提供しようということで当時の鈴木哲郎会長が提案した大会です。

益子：そのころの川越高校はおおらかで、あまり厳しくなかったね。(梶田さん、頷く)

新津：当時は3年生の春になると、自主的に引退しちゃう感じで、最後までやっていたのは、梶田君と僕だけなんですよ。

大宮桜まつり (花鎮め)

司会：大宮桜祭りでの「会」の写真を見ると四つ躰を使っていたんですね。



大宮桜まつり (昭和 54 年 4 月)
大学 3 年 / 後が梶田先生

梶田：埼玉大学では、四つを使わせられたのですよ。

新津：高校は三つだったんですけど、埼玉大学は四つだったんですね。

梶田：埼玉大

学は変な伝統があって男子が四つだったんですよ。

新津：あれは、やりにくかったです。

柿崎：我々の代は三つでしたよ。一年の春から試合があったので、躰を変えるひまがなかった。これを見て変だなと思ったんですが。

新津：高校の頃は、上はジャージの白で、下は学生ズボンでした。

内河：その頃は、弓は竹弓で、グラスファイバー弓は徐々に使われ始めた頃でした。

梶田：結局、おれは竹の弓が合わなかったね。グラスファイバーの方が合ったね。矢は竹矢の方が合った。(笑い)

(笑い、一同ふ～ん)

司会：グラス弓が良かったのは、何か矢とびが良かったとか…？

梶田：何なんでしょうね、感覚が違うんですね。わかんないですけど。

吉田：矢は竹なんですよ。

梶田：矢は竹でなければダメなんです。いろいろこだわりがありまして、四つ躰はダメ、三つ躰で、押し手躰もないと、全然できない。

会長：でもこれは、押し手躰していませんね。

梶田：してない時もありましたが、全然うまく引けませんでした。押し手躰がないと。

大学時代、弓道にのめり込む

司会：大学でも弓道が続けられたのは、新津さ

んがいらしたからですか。

新津：そうゆうことではなくて、なんとなく二人で入りましたね。

司会：自然の流れで弓道に入るとい…。

梶田：そんな感じがしましたね。

新津：そんなに引っ張ってとか、引っ張られてとかっていう覚えはないですよ。

司会：梶田先生は、大学1年で参段、2年で四段と昇段されましたが、三段も四段も一回で受かったのですか？

梶田：まあ、たまたまですけどね。

内河：それにしてもすごいですよね。

益子：その頃調子が良かったのではないですか。

梶田：いやいやいや、大学二年の頃は、悲惨でした。

(大学時代の記録帳を見ながら、)

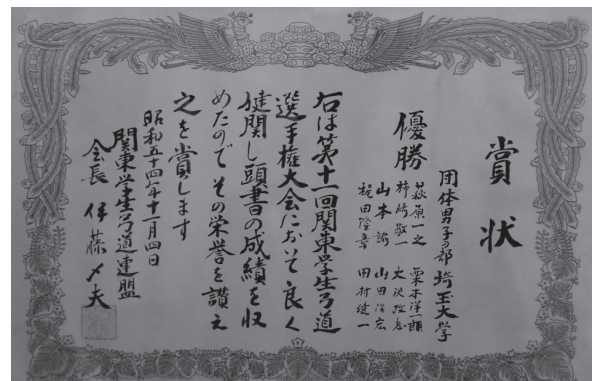
梶田：よくこんなの出てくるね。

会長：それは大学から借りてきたのですか？

柿崎：大学の弓道部から借りてきました。古い記録なので残っているかどうか不安でしたが、現役がきちんと保管してくれていました。

脇本：今の主将が書庫の奥の方から出しておいてくれました。マスコミ対策と言っていました。(笑い)

内河：ちなみに当時の弓道誌で記録を調べてみると、昭和54年の全日本学生選手権では脇本さんが2位で奥様が5位だったんですね。



昭和54年11月4日、関東学生弓道大会の賞状

益子：奥さんも優秀だったんですね。

司会：高校で引かれていたんですか。

新津：いや、埼玉大に入ってからですよ、高校では弓道部なかったんです、今はありますけど。

司会：弓道で知り合いになってここまで。

梶田：いやー、知らないですけど、弓道部の時は、顔は知っていました。

(一同、笑い。梶田先生と奥さまはともに3年次で副将をつとめていた)

脇本: 梶田先輩や新津先輩は、練習中はすごく厳しくて、べらんめえ調タイプで指導されました。声も大きくて、震え上がるくらい怖くて…。でも、オフになると全然変わっちゃうのですよ。オンとオフの切り替えがすごい。

柿崎: ジャージ着て、個人練の時は、こうゆう感じですね。合同練習になると副将になって～。

脇本: ピリピリしちゃうんですよ。

梶田: ピリピリしなくてはいけない雰囲気は当時はあったよね。

司会: どの位、引かれていたんですか？ たとえば1日に100本とか。

新津: 1日100本は引いてないね。

梶田: ずっと山立でやっていたね。

司会: 弓道部は、毎日練習していたのですか。

梶田: いや、そんなことはないです。部員全員が揃うのは週二回で、あとは試合用にも週二回しかなくて、あとその他は勝手に。

司会: 寮に住んでいたんですね。

梶田: いや寮には住んだことはないです。近くに下宿してたのは、副将の3年の時だけです。

司会: じゃ楽しい大学生活でしたね。ほとんど部活動ですか、もちろん学業の方も。

梶田: 今思うと、(学業は) もう少しやっておけば良かったんじゃないかなと思いますけどね。(笑い)

吉田: 大学で何をされていたのですかと聞かれると、「弓道です」と。(笑い)

脇本: 図書館にいらっしゃるか、弓道場にいらっしゃった。図書館に歩いて行く時も、こんなこととして(離れの格好)歩いてました。(笑い)

新津: ああ、それは俺も覚えがある、やってたやってた、確かに。

益子: (梶田さんに) 会、持ってなかったでしたっけ。

梶田: いやいや、ダメでしたよ。

脇本: 早気っていうことはないですよ。

梶田: うーん、そこらへんが最後甘くなって、皆さんの足を引っばったという印象があって。

脇本: うーん、5秒は会がありましたよね、梶田先輩は。

梶田: ありがとう、ありがとう。

司会: 大学ですと、合宿もありますよね。

新津: そういえば、1年の合宿の時は、毎日毎日坐射でずーっとやっているから、膝がいかれてきちゃって、最後、反省会とって、班長や上級生やOBの話を正座でずーっと聞いていて、終わると、俺たち1年生は誰も立てなかったよね～。100射会も坐射でした。今は、200射会もやっているんですよ。

梶田: 200射ってのは、意味あるの？

山田: 100じゃちょっと少ないから。(笑い) 300とかもやってたよ。

柿崎: 大晦日に、108射会やってましたよね。

梶田: 俺も参加したことあるけど、一度も108引いたことないね。(笑い)

研究生活と弓道

司会: それでは、梶田先生が研究生活に入られてからの話ということで、まずは弓をやる時間がなかったということでしょうか？

梶田: 大学院の頃は、まだ神岡から帰ってきて、たまに弓道場に通っていた。たしか、31歳の時に病気になって、それでやめちゃったような気がしますね。

司会: そのころ、神岡にいらしていたのですか。

梶田: 35歳あたりで神岡に常駐して、完全に弓道から離れてしまいました。

司会: 先生の研究論文発表が1988年、検証できたのが1998年、それからノーベル賞を受賞されるまで、10数年かかり、相当時間がかかっている。弓道自体が長い時間かけて極めていく、研究もそれに近いものがあると思いますが、その辺のお話を聞かせてください。

梶田: いやー、もちろん、何とか研究者になるには、時間がかかる、それはそうだと思うんですけど、なかなか弓と結び付くかどうかは難しいですね。

若い人への発信、宣伝の必要性

司会: お手元に先生が書かれた「重力波の研究を目指す若い人へ」のメッセージがあります。若い人へは何らかの発信が必要と思いますが、いかがでしょうか。

梶田: それは言えますね。我々は、結構宣伝します。大学院に入ってくる学生にこういう研究分野があって、おもしろいということを知ってもらわないといけない。

司会：それは例えば講演とかでしょうか？

梶田：講演もしますが、宇宙線研究所では、先着順で応募させるんですけど、1週間「かんづめ」にして、いろんなことを教えたり、やらせてみたり、体験させる。教員も結構大変なんですよ、それだけでへとへとになるくらいなんです。そういうことをやると、結構この分野に興味を持ってくれたりして、大学院に来てくれる。

司会：山田先生、高校生が弓道をやるきっかけですが、宣伝しなくても興味を持ってくれるのですか？

山田：いや、高校生は宣伝しないで黙っていたら来ません。その後はいかに上手に教えるか、どういう風に魅力を伝えていくかが必要だと思います。

司会：高校卒業生に弓を再開してほしいということですが、会長のお考えはいかがでしょう。

会長：我々のPR不足を痛感しますね。卒業してしまったら、どこで練習していいかわからない。道場とか、誰に連絡を取ればいいのか、きちんと言っていかないとだめでしょうね。

司会：梶田先生、メディアでの発信もやられているのでしょうか？

梶田：ある程度やっています。去年くらいから定例で1年に1回から2回、メディアの方を集めて、宇宙線研究所でこういうことをやっていますよ、と情報をインプットしておくことはやっています。

司会：定例でやっているということですか？

梶田：定例でやっています。

弓道は好きだからやれた

吉田：10年間待ちの姿勢にあったわけですが、何がモチベーションになっていたのか、そういったところは、弓道で身に付けてきたものと研究というものと関係があるのではないかと。梶田さんは「いやないよ」と言われるんですけど、その辺はどうですか？

内河：私は、梶田さんの根源的な性格にあるのではないかと思います。何事も中途半端なことでは気が済まない、粘り強く、とことん納得のいくまでやるという姿勢は、弓にも通じるし、研究にも通じるのかなと思います。

(梶田先生、頷く)

新津：一途だと思いますよ。弓もそうだったし。



昭和54年11月4日 関東学生弓道大会、大後が梶田先生

やっぱり大学は中りにこだわるけど、彼の場合ほとことん、弓の射形にこだわる、納得いくまで求めるというイメージでやっていたと思う。

山田：あてる弓道でなく、あたる弓道。

吉田：梶田さんをご自身で思っていなくても、周りの方がそうおっしゃっているので、そうなのだと思う。

梶田：自分で納得するかどうか、、、(全員(笑))

山田：でもご自身では、どうなんですか。一つのを極める。もちろん研究者はそういうものなんでしょうけど、なんか中途半端じゃ気が済まない…。

梶田：まあ、多少のめり込む方なのかなという気がしますけど…(全員(笑))

吉田：学生時代、下宿してまで弓道のためのめり込んだというのは、そこは通じますよね。

梶田：まあ、それは、まあ多少責任感はある…(笑)

脇本：好きだから、やれたのではないですか。

梶田：好きだから、一応副将としての責任感で…。

司会：梶田先生はいつも笑顔でおられますが、昔からだったのですか？先ほど大学時代の副将時代は怖かったという話も出ておりましたが。



茶目っ気いっぱい、左から3人目が梶田先生

梶田：どうなんだろうね。

新津：でも内河先生が言っておられました、結構茶目っ気があるという面もある。

吉田：落ち着きをつけたいから弓道を始めたのでは。

梶田：あ～それはないですね。多少弓道から学んだものはあると思うけど、落ち着きを付けたために弓道をとという考えはなかったですね。

趣味でも良いから、弓道をまたやりたい

司会：先ほど（弓道を）休会した方に再開して欲しいという会長の話がありましたが、梶田先生から何かメッセージを頂きたいのですが。

吉田：梶田さんが弓道をやっていただくのが一番良いのだが。（全員（笑））

梶田：そう思います。自分でもそう思っているんですよ。でもね～今は時間がなくてね、、

吉田：梶田先生が弓を再開するのが一番のPRでしようね。道具は持っているんですか。

梶田：道具は持っています。但し矢は20年近くそのままなので、手入れしないといけないと思います。弓道はやりたいんだけど…。

吉田：奥様もやりたいとおっしゃってました。

司会：奥様もずっとやられていた？

梶田：30ちょっと過ぎあたりまで。富山に引越してからは、全然引いてないね。

吉田：いや～埼玉でやって欲しい～。（全員（笑））

梶田：それは～大変なんだよ。

司会：弓道をやっている高校生や大学生への応援メッセージをいただきたいのですが。

梶田：う～ん。はい。結局皆様がこれだけのめり込んでおられるのだから、それなりのものが弓道にはあると思います。皆さん、是非のめり込んでいただいて、そのまま続けてくれば、よろしいと思います。むずかしいこととは思いますが。

脇本：私も週に一回は稽古しようと思っていますが、仕事があったりして、できないことが多々あります。

梶田：そこまでやれたら良い。

脇本：梶田先輩は中途半端ではやりたくないという気持ちがあるんじゃないですか？

梶田：俺ね～趣味でも良いからやりたいと思っているんだけど。

会長：仕事持っていたら、なかなかできないで

すね。また、道場にいくまで大変ですよ。私なんか、家でゴム弓を引いているんです。

梶田：はあ～。

本橋：寝る前なんか…。筋肉動かしていないといけない。大分違いますよ。

司会：他に、梶田先生にご質問はありますか？

内河：ふりかえってね、高校・大学と7年間、それも中途半端でなく、弓にのめり込んだ、それは良かったと思われませんか。

梶田：いや～良かったと思いますよ。ある程度のめり込んだこと自体が良かったし、まあそれなりに楽しかった。結果も出てるからね。

弓道から重要な場面での心の持ち方を学ぶ

吉田：弓道を研究と簡単に結びつけちゃだめだよといわれましたが、もっと広い人間形成の意味で、弓道やられていて、何か役にたったことはありますか？

梶田：弓道をやったのは、重要な場面での心の持ち方の重要性。そういうのは学んだ気がしますね。

吉田：もうちょっと具体的に…。

梶田：つまり、絶対に抜くべきでないときに、抜かないために気持ちを集中するとかね。そういうことはたぶん、弓道から学んだ気がする。

吉田：それが研究に結び付くのではないですか？

梶田：どういうところで結びつくかですが、研究成果が出て、そのプレゼンテーションをする時は、重要なプレゼンテーションになりますから、そういうところで活かされていると思います。

柿崎：優勝した年のリーグ戦の第2戦に益子さんがいらした千葉大を1中差で破って勢いに乗

りました。その時は4立目が終わった時に3中差で負けていましたが、5立目、梶田さんが落のAチームが16射14中で逆転しました。もう一つ、関東大会の時も5立目、Aチー

関東学生弓道大会の記録簿、後半10本を皆中した梶田氏

ムは16射 15中で差を4中差に広げて優勝を引き寄せました。どちらの時も梶田さんは4矢皆中で、ここぞという時には絶対に抜かない集中力がありません。

梶田：でも集中し過ぎも問題で、何も周りが見えてなくて、弓を間違えて持っていった。(全員(笑))直前で気が付いて、急遽取り換えてもらった。

司会：梶田先生が第1回の高校王座決定戦で優勝された川越武道館も40年経って取り壊す話が出ています。県内の他の弓道施設も同様と思いますが、研究のための施設も必要なものがあると思います。梶田先生の場合は、プロジェクトを含めて研究施設などの予算措置は問題はなかったのですか？

梶田：まあ、これも僕の身近ではうまくいっていたと思いますけど、なかなか今の日本の財政状況では、厳しいことは厳しいですね。

吉田：予算を取るためのここぞという時は、梶田先生はきちんとと言われる。先日も埼玉県の上田知事にお会いになった時、日本の基礎研究にもっと予算をつけなくちゃいけないと、真剣にびしっと言われました。弓道連盟もきちんと言われてはどうですか。

会長：今回を機にきちんと定期的に情報発信をしていこうと思います。

会長から謝辞

司会：時間もだいぶ経ちました。会を閉じるにあたり、会長から謝辞をいただきます。

本橋：梶田先生、貴重な時間を我々の為にとつていただき、ありがとうございました。連盟に持ち帰り、先生のエピソードを加えながら、連盟活動に活かしたいと思います。また、若い人の弓道への定着を発展させていきたいと思いません。本日は誠にありがとうございました。

梶田：どうもありがとうございました。(一同拍手)

梶田隆章先生 弓道昇段歴

初段 昭和49年11月10日(川越高校1年)
二段 昭和50年9月21日(川越高校2年)
三段 昭和52年11月6日(埼玉大学1年)
四段 昭和53年11月12日(埼玉大学2年)

梶田隆章先生の研究の歩み

1959年生まれ。1977年県立川越高等学校卒業。1981年埼玉大学理学部物理学卒業。東京大学大学院理学系研究科の小柴研究室に入り、カミオカンデ実験に参加。1986年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了、陽子崩壊の研究で博士号取得。1988年カミオカンデの観測で、大気ニュートリノ振動の兆候を発見し、最初の論文を発表。1996年スーパーカミオカンデが完成、観測開始。1998年ニュートリノが質量を持つことを示すニュートリノ振動を発見し、ニュートリノ国際会議で発表。2008年東京大学宇宙線研究所所長。2015年ノーベル物理学賞受賞。



前列左から、本橋会長、梶田隆章先生、内河輝臣参与、
後列左から、吉田俊一、益子俊明、脇本 緑、柿崎敬一、新津雅之、山田紀之、千葉 公(司会)



秩 父 支 部

支部長 守屋 豊

平成 27 年度を終えて

支部長 守屋 豊

会員はじめ役員の協力を得て、27 年度事業も無事終了し、新年度を迎えることができました。秩父支部の組織は、中学校 1 校、高校 4 校、一般 7 道場・団体が構成しています。支部の 1 年は、4 月 29 日開催の県下三道大会の準備に始まり、当日は中学、高校、一般計約 4 百名の参加を得て開催しています。支部の定例大会は 7 回実施、一般のみの参加は 1 回、6 回は中学生及び高校生の参加で実施しています。

講習会は、高校生対象を含め 4 回実施。女子部は、射会・講習会を合わせて 4 回を実施しています。年度末は、次年度の県下三道大会の案内事務等で 1 年が終わります。会員数の少ない支部ですが、埼玉連誕生以来 4 名の先生方が連盟会長に就任され活躍いただいた自慢の支部です。今後さらに自慢できる支部に・・・と願っています。皆様の更なるご指導ご支援をお願い申し上げます。

< 競技・講習会 >

●支部カップ戦

第 5 回支部カップ戦平成 27 年 10 月 25 日(日)
秩父第 1 弓道場 参加 101 名

中学生①高橋創悟②町田たばさ③小池悠人
高校男子①根岸瑞樹②渡邊敏生③柴山 敦
高校女子①井上美羽②吉澤悠弥③堀口綾音
一般女子①吉澤和代②瀬戸美代子③大堅敦子
一般男子①望月雄宣②井上和春③大堅 直

第 6 回カップ戦・納射会平成 27 年 12 月 6 日(日)
秩父第 1 弓道場 参加 73 名

中学生①町田たばさ②高橋創悟③ 村田栞歩
一般女子①黒沢淳子 ②齋藤公子 ③山科くるみ
一般男子①藤井武政②猪野 栄③猪野翔一郎

第 7 回カップ戦・初射会・昇段昇格者披露表彰
平成 28 年 1 月 17 日(日)

秩父第 1 弓道場 参加 101 名
中学生①小池悠人②小鹿原祥吾③根岸浩貴
高校女子①井上美羽②小菅 萌③神田歩美
高校男子①引間生吹②中島 遼③茂木唯人
一般女子①山科くるみ②井上美根子③吉澤和代

一般男子①町田文利②中島烈士③岸 達郎

●女子部射会・講習会

研修会・射会 平成 27 年 11 月 20 日(日)
秩父第 1 弓道場 参加 15 名

①加藤晴美 ②黒沢淳子 ③山科くるみ

講習会 平成 28 年 3 月 13 日(日)

秩父第 1 弓道場 参加 16 名

講師 戸塚藤代教士七段

内容：午前・一手審査方式、基本動作、午後・射技指導、仕上げ・審査方式、持的射礼、一つの射礼

●高校 4 校大会

第 2 回 平成 28 年 3 月 28 日(月)

秩父第 1 弓道場 参加 40 名

男子団体の部

①秩父農工科学 B チーム(長島・茂木・渡邊)

②秩父農工科学 A チーム(柴山・北口・野沢)

③秩父農工科学 C チーム(江原・中村・鈴木)

男子個人の部

①野沢和寿(秩農工科)②茂木唯人(秩農工科)

③鈴木慶太郎(秩農工科)

女子団体の部

①秩父農工科学 A チーム(春山・田島・井上)

②秩父農工科学 B チーム(堀口・力山・神田)

③秩父高校 A チーム(藤田・中村・町田)

女子個人の部

①堀口綾音(秩農工科)②井上美羽(秩農工科)

③田島梨央奈(秩農工科)

●講習会

特別講習会 平成 27 年 12 月 13 日(日)

秩父第 1 弓道場 参加 30 名

講師 松沢 岳範士

名誉会長松沢先生を迎えての特別講習会は、寒さもなんのその、「動作を丁寧に、基本を正しく」松沢先生の熱心なご指導のもとに参加者一同背筋を伸ばし、射礼研修・射技研修と大変充実した講習会となりました。(町田指導部長)

四段以下講習会 平成 28 年 1 月 24 日(日)

秩父第 1 弓道場 参加 16 名

講師 支部指導部 町田指導部長他

内容：一手審査方式、基本動作、射技指導、仕上げ審査方式

高校生講習会 平成 28 年 3 月 20 日(日)

秩父第 1 弓道場 参加 29 名

講師 支部指導部 町田指導部長他

内容：基本動作、射技指導、審査方式

県北支部

支部長 高橋 久雄

一年を振り返って

支部長 高橋 久雄

支部長になって、あっという間の一年でした。皆様のご協力をいただき、無事に平成 27 年度を終えることができ、誠にありがとうございました。一年を振り返り、支部の課題とその対策について考えました。

熊谷の地方審査会では、受審者の控え場所が遠的場しかないという問題があります。そのため昨年はテントを張って、遠的場の軒下からテントの上までシートで覆いました。ところが朝行ってみると、夜間に降り溜まった雨の重さでシートが外れていました。その場は応急処置をおこない、審査会は無事終了することができましたが、再度雨天の対策を見直します。

支部講習会は、無段から四段まで一同に集めての講習です。会場となる道場の広さと参加人数等から、講師には負担が重く、受講者には十分な講習が受け難いと感じました。支部内に先生方も増えてきているので、他の先生方にも協力を仰ぎ、受講者数を制限し講習回数を増やす方向で内容を充実させたいと考えています。

支部錬成会では、毎年募集定員に対して入会希望者が多く、皆様の強い向上意欲を感じていました。しかし昨年は定員を大幅に超えたため、一部の人には入会を断念していただくざるを得ませんでした。改めて錬成会の位置づけや目的などを検討し直したいと思います。

新年度も常に課題意識を持って、よりよい運営ができるよう取り組んでいきます。支部の皆様には、今後ともご協力をよろしく願いいたします。

<競技・講習会>

●第三回支部講習会（初段～四段）

平成 27 年 10 月 10 日（土）

行田市弓道場 参加者 39 名

講師：飯島千代子教士、戸塚藤代教士

内容：一手審査方式、入場～矢番え迄の体配、射技指導等

●第三回支部錬成会

平成 27 年 10 月 17 日（土）

熊谷運動公園弓道場 参加者 36 名

講師：松沢 岳範士、正能正三教士

内容：審査方式、松沢先生の講話、射技指導等

●第三回支部カップ戦

平成 27 年 10 月 25 日（日）

鴻巣市立総合体育館弓道場 参加 73 名

団体①熊谷公園：近藤 香、吉田恵子、田本純子②鴻巣：竹原 賢、大内三郎、大塚元治

一部①中嶋由美子、②駒野 豊、③中野忠雄

二部①関口尚人、②大内三郎、③高橋茂子

三部①澤久保勝義、②佐藤敏勝、③坂本温見

●支部初射会・中央審査昇段昇格者祝射会

平成 28 年 1 月 24 日（日）

熊谷運動公園弓道場 参加 62 名

一部①岡芹喜行、②茂木昭夫、③高橋久雄

二部①山田 昇、②下川明生、③樋口和広

三部①押切幸雄、②中 唯志、③井下光司

●第四回支部錬成会

平成 28 年 1 月 30 日（土）

深谷 B T 弓道場 参加者 36 名

講師：松沢 岳範士、飯島千代子教士、岡芹喜行教士

内容：審査方式、松沢先生の講話、射技指導等

●県北支部総会射会

平成 28 年 3 月 27 日（日）

熊谷運動公園弓道場 参加 44 名

一部①高木行治、②寺崎正道、③正能正三

二部①内山俊夫、②吉野良夫、③矢木研三

三部①井下光司、②澤久保勝義

●第 102 回県北高校弓道大会

平成 28 年 3 月 28 日（月）

熊谷運動公園弓道場 参加 251 名（男子 128 名、女子：123 名）

男子優秀校：寄居城北高校

女子優秀校：寄居城北高校

男子①小池隆志②江森陽樹③邊見颯星

女子①水野彩香②佐藤那南③大沼愛花

東 部 支 部

支部長 小林 次雄

老(?)若男女益々活躍

支部長 小林 次雄

平成27年度下半期の行事も計画通り遂行しました。3月19日(土)には100名を越す出席者の下で定期総会を行い、平成27年度の会務報告および決算の承認、平成28年度事業計画および予算の承認がなされました。

支部会員数は一般、高校共に増加し、特に高校会員は100名を越す増員となりました。

下半期の大会成績では、春日部女子高校が東日本大会で射道優秀賞、全国選抜大会では団体3位と技能優秀校を受賞しました。県武道大会では中学生の部で久喜太東中学校の栗田朱梨さんが第2位に入賞するなど中高生の活躍が目立ちました。

このような中、平成28年度長寿賞表彰では2名の方(根本武次郎教士、石井好子錬士)が傘寿表彰を受けられます。今まで長寿賞を受賞された10名の方々と共に、これからも東部支部隆盛のためにご指導頂きたいと思えます。

(文責:綾戸岩雄)

<競技・講習会>

●県民総合体育大会兼高校弓道新人戦

平成27年10月3・4日(土・日)

大宮公園弓道場

○男子個人第3位 春日部高校 榊原奎亮

○女子団体第2位 春日部女子高校Bチーム

(岡崎 歩・梶目真帆・廣田香菜・船本陽奈)

第3位 春日部女子高校Aチーム(菊池香那・川西舞奈・西村万結・高島華子)

●県高等学校弓道選手権大会兼全国高等学校選抜弓道大会・県予選

平成27年11月7・8・14日(土・日)

大宮公園弓道場

女子団体第1位 春日部女子高校Aチーム(菊池香那・岡崎 歩・川西舞奈・今 彩音)第2位 久喜北陽高校Bチーム(中島瑞陽・高橋詩帆・井上桃花・鈴木美里)

春日部女子高校Aチームは全国選抜大会に出場し、全国第3位入賞及び技能優秀校を受賞

●支部納射会 平成27年12月6日(日)

大宮公園弓道場 参加者111名

○個人/①西山 茂(上尾)、②森谷秀哉(幸手)、③富永 剛志(上尾)

●支部初射会 平成28年1月9日(土)

県立武道館弓道場 参加110名

○個人/①遠藤忠昭(北本)、②齋藤 満(久喜)、③関 美幸(久喜)、○金的/南雲三枝子(幸手) 平川みゆき(上尾)、高野 聖(久喜)

●支部指導部・競技部合同研修会

平成28年2月11日(木:祝)大宮公園弓道場

参加者37名(支部長・副支部長・指導部・競技部員・県競技委員及び各道場推薦者)

○概要:指導部/弓道教室の課題について、支部内講習会のあり方についてグループ討議。競技部/競技会における各役割分担業務についてグループ討議と発表。競射における順位決定の進行係・的前係の諸動作確認。基本体の確認、矢の処理と弓の受け渡し。射技指導。

●支部総会・射会 平成28年3月19日(土)

大宮公園弓道場 参加100名

○個人/①南雲三枝子(幸手)②岡田 学(杉戸)③矢島清美(久喜)

●自主錬成会

平成27年10月12日(月)大宮公園弓道場

参加14名 参加者による自主運営 内容:矢渡しと介添え、審査方式での行射、持的射礼、入退場、射技、巻藁練習

●第6回講習会(四段以下)

平成27年12月12日(土)大宮公園弓道場

参加23名 講師:支部内称号者 内容:矢渡しと介添え、審査方式での行射、講話(審査におけるマナー)、基本の動作、執り弓の姿勢、矢番え動作、入退場、着物の着付け、肌脱ぎ、襷掛け

●第7回講習会(高校生)

平成28年3月12日(土)大宮公園弓道場

参加105名 講師:支部内称号者 内容:講師による入退場の演武、入退場および本座と射位での動作、一矢での審査方式の稽古(立番を変えて繰り返し実施)、一手での審査方式稽古

平成28年3月28日(月)県立武道館弓道場 参加67名 講師:支部内称号者 内容:入退場および本座と射位での動作、審査方式稽古(立番を変えて繰り返し実施)

県南支部

支部長 谷口 保雄

私の弓の出会いと楽しみ方

支部長 谷口 保雄

私のささやかな経験を書かせて頂きますので、多少でも皆様のお役にたてれば幸いです

弓との出会いは十九歳の頃、友人から弓に誘われ町にある矢場に行ったことです。矢場のご主人がとても親切な方で、十分に練習させて貰い、射会の時にはお弁当を用意して子供のように可愛がっていただきました。

その後、東京の浜松町にある旧芝離宮恩賜庭園弓道場に通い、恩師である山中恵輔先生から手ほどきを受け、昔の先生方の事や道具の事を学びました。恩賜庭園弓道場には宇野要三郎先生がおいでになり、いつも大後ちで淡々と弓を引いておられ、お昼には奥様手づくりのサンドイッチを召し上がっていらっしやいました。審査を受ける全国の先生方が恩賜庭園にみえましたが、宇野先生は「いつものように引けばいいんだよ」と必ずおっしゃいました。

恩賜庭園では、様々に弓を楽しむ方が集い、道具の見方・手入れ・楽しみ方を学ぶことができたのは貴重な経験でした。中でも、宇野先生の桑のシコ壺の弓は素晴らしいものでした。

弓の楽しみ方は、射法・射技の探求だけでなく、時代とともに消えつつある昔からの道具を作る技術・伝統を少しでも伝えていくこともあると思います。高い技術を持った方にお話を聞く機会があり矢師の石津巖さん・長谷川三郎さん・安田正清さん・真家宗吉さん、躰師の中村浪子さん・萩原厚さん・千葉さん等々、多くの出会いがありました。

現在、手元にある弓具は、輝則・特上正澄・吉幸・正利・吉兼・正廣・正則等の、蛇腹(小控・大控)や印伝・鶉紋り等で仕上げた控飾り等の躰は、素晴らしい職人技を感じさせてくれます。或いは、削り放しや八角篋、砂擦り、さわし篋、節影等に仕上げた篋や白檀塗・樺巻・金箔散し等の矧飾りを施した矢には、矢師の美意識を感じます。

弓では、石津重貞・杉山重興・松永萬義、紅葉散し模様の漆塗弓や側木の虎斑が美しい古弓も見事です。弦巻では、最近では少なくなった紙縫りの弦巻や籐製の飴色になった古い弦巻などを愛用しています。

矢筒も作者不明ながら一貫張・長門・千筋・

桜樺細工等々あり、様々な技術があります。

五十年に渡る弓道人生。昭和59年に自宅道場を作り、夫婦・息子夫婦・やがては孫達そして道場に来て下さる方々とこれからも修練を重ね楽しい弓を引き、親しく語り合い、また道具との出会いを楽しみたいと思っています。

最後に、私のモットーは健康を大切に、常に腹を横にして弓を楽しむことです。

<競技・講習会>

●平成27年度納射会 県営大宮公園弓道場

平成27年12月13日(日)参加者114名

①昆 祐樹(川口)②菅谷弘子(吉川)③中村忠夫(草加)

●平成27年度初射会 県営大宮公園弓道場

平成28年1月17日(日)参加者110名

①郡司 勉(吉川)②小島克之(戸田)③大西三枝子(越谷)

●平成28年度総会射会 県営大宮公園弓道場

平成28年3月19日(土)参加者118名

①小川正次(越谷)②木本将史(蕨)③大川欣之(草加)

●第3回四段以下講習会 県営大宮公園弓道場

平成27年10月17日(土)参加者69名

講師：戸塚藤代、瀧上三郎、斎藤和子、出下晃一郎、森 正一各教士

●第4回三・四段以下講習会 県立武道館

平成28年1月23日(土)参加者51名

講師：岡芹喜行、谷口保雄、鹿野信恵、寶田秀子各教士

●第4回式段以下講習会 県立武道館弓道場

平成28年2月6日(土)参加者41名

講師：鷹巣光子、古泉利昭、鈴木多恵子各教士

●県南支部高校生講習会

①平成28年1月31日(日)参加者70名 県営大宮公園弓道場 講師：谷口保雄、大竹淑夫各教士、千葉妙子、有ヶ谷将人、木本将史、星野里美各錬士

②平成28年2月7日(日) 県営大宮公園弓道場 参加79名 講師：森 正一、相馬喜恵各教士、佐々木睦美、宮澤梢枝、落合正規、西澤祐樹各錬士

*講習会内容は各段位に応じて、体配、射技指導等を実施

●県南支部合宿研修会

平成28年2月27日(土)～2月28日(日)

参加者38名 県営大宮公園弓道場、講師：県南支部教士 研修内容：審査方式体配、射技指導、講師による模範演武と講話。

県 央 支 部

支部長 浅子 好夫

県央支部 15 周年記念射会

副支部長 小島 節子

さいたま市は平成 13 年に浦和、大宮、与野が合併して各弓道会がまとまり、さいたま市弓道連盟が誕生しました。平成 17 年に岩槻が加わり現在 550 人以上の会員が在籍し多くの方とふれあいのできる大きな連盟になりました。平成 27 年の 11 月 15 日に県央支部杯と市選手権に合わせて記念射会を大宮公園弓道場で行いました。浅子支部長と役員で記念品を(紫に染めたかけ入れ)決め大会までに間に合うように手配し、お昼のお弁当を用意し会員の協力のもと 102 名参加で盛会に終了した事嬉しく思いました。

< 競技・講習会 >

● 武道大会出場者最終選考会

平成 27 年 10 月 3 日(日) 県立武道館弓道場
参加 28 名 出場選手男女各 5 名 代替要員 2 名 選出

● 市民体育大会

平成 27 年 10 月 17 日(土) 大宮公園弓道場
参加者 126 名 ○ 団体 ① 駒場(鷹巣光子・古泉利昭・廣松弘) ② 駒場(小野田晃夫・佐野正和・原田昌彦) ③ 駒場(鈴木逸士・松浦敦子・山岸繭子) ○ 個人男子 ① 松平健児(与野) ② 辻敏治(岩槻) ③ 佐野正和(駒場) ○ 個人女子 ① 鷹巣光子(駒場) ② 金子節子(駒場) ③ 由岐中美智江(大宮)

● 市民体育大会高校の部

平成 27 年 10 月 25 日(日) 大宮公園弓道場
参加 479 名 ○ 団体男子 ① 岩槻商業(上杉・塚田・関根) ② 浦和実業(菅木・杉田・橋本) ③ 浦和(塩澤・丸山・前原) ○ 団体女子 ① 大宮南(永安・島村・圓子) ② 大宮光陵(島田・鈴木・折原) ③ 浦和西(中山・安達・山崎) ○ 個人男子 ① 塚田大斗(岩槻商業) ② 小岩玲哉(大宮南) ③ 鈴木悠(浦和西) ○ 個人女子 ① 島村奈月(大宮南) ② 春日奈々子(大宮南) ③ 京野雛乃(岩槻商業)

● 県央支部杯・市選手権大会・支部市弓連創立 15 周年記念大会 平成 27 年 11 月 15 日(日) 県立武道館弓道場 参加 102 名 ○ 団体 ① 松浦敦子(駒場) 小原真弓(岩槻) 荒井 渉(大宮) ② 須藤啓介(記念) 川合儉司(大宮) 蓮見文子(駒場) ③ 白石 唯(記念) 永江悠暉(与野) 西田道子(大宮) 個人 ○ 称号者 ① 鈴木昭一(大宮)

② 矢部昌子(大宮) ③ 小石久枝(記念) ○ 四五段 ① 東森貴志(岩槻) ② 川合儉司(大宮) ③ 辻 敏治(岩槻) ○ 参段以下 ① 北野達夫(駒場) ② 須藤啓介(記念) ③ 原田昌彦(駒場)

● 県央支部納射会

平成 27 年 12 月 13 日(日) 県立武道館弓道場
参加 127 名 ○ 称号者 ① 浅野有三(記念) ② 前川良輔(記念) ③ 古泉利昭(駒場) ○ 四五段 ① 大成周子(記念) ② 片田 哲(記念) ③ 小澤伸江(大宮) ○ 参段以下 ① 仁木弘之(駒場) ② 堤麻里奈(岩槻) ③ 池永直子(記念)

● 県央支部初射会

平成 28 年 1 月 11 日(月) 県立武道館弓道場
参加 138 名 ○ 称号者 ① 飯島 功(岩槻) ② 浅野有三(記念) ③ 片岡一子(大宮) ○ 四五段 ① 林勝喜(与野) ② 國廣紘一(記念) ③ 吉田治弘(大宮) ○ 参段以下 ① 山本妙子(記念) ② 村山三枝(岩槻) ③ 須原 暢(大宮)

● 県央支部総会射会

平成 28 年 3 月 20 日(日) 大宮公園弓道場
参加 76 名 ① 浅野有三(記念) ② 辻 敏治(岩槻) ③ 須原 暢(大宮)

● 春季高校生(中学生)大会

平成 28 年 3 月 28 日(月) 大宮公園弓道場
参加 588 名 ○ 団体男子 ① 大宮(北地・吉田・福場) ② 浦和北(吉田・渋谷・藤牧) ③ 浦和西(鈴木・鈴木・鈴木) ○ 団体女子 ① 浦和西(廣瀬・安達・谷島) ② 与野(須藤・本多・横溝) ③ 浦和一女(岡本・横田・齋藤) ○ 個人男子 ① 渋谷玲音(浦和北) ② 小岩怜哉(大宮南) ③ 関根直樹(岩槻商業) ○ 個人女子 ① 永安朱夏(大宮南) ② 廣瀬天優(浦和西) ③ 齋藤里緒(浦和一女) ○ 中学生個人 ① 大井絵里可(市立浦和) ② 竹田琴音(市立浦和) ③ 魚住佳乃子(市立浦和)

● 称号者講習会

平成 28 年 1 月 17 日(日) 県立武道館弓道場
参加 33 名、講師：岡田義助教士、廣松弘教士
講習内容：一つの射礼、立ち射礼、高校生指導について

● 五段講習会

平成 27 年 1 月 24 日(日) 大宮武道館弓道場
参加 36 名、講師：小宮栄子範士、古泉利昭教士、浅子好夫教士
講習内容：肌脱ぎ、襷さばき、失の処理、問合いの取り方、持ちの射礼

● 四段以下講習会

平成 28 年 1 月 31 日(日) 県立武道館弓道場
参加 99 名、講師：飯島千代子教士八段、鷹巣光子教士、廣松弘教士、山崎孝美教士、松澤

かおり教士、平野博幸教士 講習内容：射技指導、肌脱ぎ、襷さばき、体配研修

●高校生講習会

平成 28 年 2 月 28 日（日）県立武道館弓道場
平成 28 年 3 月 13 日（日）大宮公園弓道場
平成 28 年 3 月 13 日（日）大宮武道館弓道場
参加 279 名 講師：岡田義助教士、他支部内称号者 33 名 講習内容：審査に向けての体配・射技指導、入退場の仕方、注意事項の確認等

ねんりんピック おいでませ！山口

副支部長 小島 節子

27 年度ねんりんピックの代表に選出されて（10 月 17 日～20 日開催）山口県に行ってきました。前日にさいたま市選手団は新幹線で新山口まで行き、そこからバスで宿泊先の萩のホテルに早めに到着しましたので弓道の選手 8 人で（池田、廣川、松田、荒井、佐々木、小島、五十嵐、國廣）車を手配し、萩の町を見学しました。

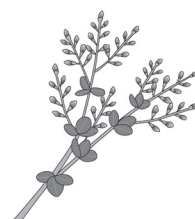
自然と海を背に囲み砦のように石垣を積んだ萩城や、築地塀の上級武家屋敷、普段ツアーで行かないような細い路地、住まいの脇にある今でも洗い物などで使われている細い澄んだ小川に大きな鯉がゆうゆうと泳いでいました。又各家庭には大きな夏ミカンの木があり、昔領民が生活に困らない様にと毛利様の命令で植えたとの事でした。夏ミカン公園もあり、夏ミカンを使った一子相伝の夏ミカンの丸漬の美味しいお菓子も名物ですが予約で午前中に売切れてしまうそうです。山の上の毛利家の歴代の方々が眠る大きな御廟や幕末から明治にかけて活躍した若き志士達の生まれた家や眠る墓地など案内して頂きました。松陰神社の中の六畳一間の小さな寺子屋で明治維新の時代に活躍された方々が学んだと思うと、良い指導者と高い志を持ち学べばどんなに苦しくとも自分の思いを遂げられる人物になるのだなと感慨深く見学してきました。最後に見学した世界遺産の反射炉は実際には使われなかったそうですがたまたまテレビの影響もあり萩の町も大勢の観光客で賑わっており歴史や街並みを堪能しました。

翌 17 日は山口市の維新百年総合運動公園に於いて常陸宮ご夫妻の御臨席のもと万人の入場行進がありました。万人の入場はとても壮大で華やかななか子供たちの踊りやマーチング

バンド、岩国藩鉄砲隊のパフォーマンスがあり、地元の小学生の接待で一緒にお弁当を食べ、あまり埼玉県を知らないと言うので埼玉の産業や観光など宣伝をしたり皆さん孫と話しているように楽しく過しました。その後選手たちはバスで各会場に移動となりました。弓道の試合は下関で開催でしたので全国の弓道選手の歓迎会は海峡メッセ下関で行われました。いつもお会いできない各県の選手とも明日から頑張りましょうと挨拶を交わし旧交を温めました。下関ではフグをフクと言いますが下関市長はフクの免許をお持ちという事で舞台の上でフクを捌き各テーブルには名物のフクをはじめクジラ唐揚げ、ウニ飯や飲み物などが並び年に一度赤間神社に奉納される花魁道中の華やかなお練りを見せて頂きました。心からのおもてなしの気持ちが伺える素晴らしい歓迎会でした。

18 日 19 日と山口県立下関武道館で試合が始まりました。控えにはお茶やコーヒー、うどんなどの接待があり市の職員や沢山のボランティアの方たちのお世話になりました。立ち番は 17 番で前射場後ろは地元の山口でしたがその応援の凄い事。選手全員努力しましたが残念ながら普段の実力があらずあらためて平常心の大切さを感じました。又 18 日 19 日と下関市から午後バスが出て立ち番が早いチームは唐戸市場や赤間神社、大正ロマンの建物、そして一生に一回は行きたい島といわれる角島に。試合に来たのか観光かわからない位に楽しいねんりんピックになりました。20 日朝下関で解散になり岩国の錦帯橋や姫路城に寄られる方、福岡太宰府行き美味しいものを堪能して飛行機で帰られる方などそれぞれ帰路につきました。さいたま市の中でも普段なかなかゆっくりお話もできない方々と楽しくすごし作戦会議や反省会など弓を引いているからこそその楽しみをさせて頂き感謝しています。又次のねんりんを目指し努力いたします。

年齢を重ねると体力は衰え、故障が多くなりともすると弓への情熱を失いかけることもありますが弓友の皆様の励ましで前を向いて努力することが出来ます。これからも長く元気に楽しく修練しますので宜しく願いいたします。



西部支部

支部長 森川 寛人

支部だより

支部長 森川 寛人

平成 28 年 3 月 26 日所沢市民武道館大会議室において西部支部評議員会が開催され、新年度の行事および予算が決まりました。

支部の行事遂行のため支部の役員および会員の皆様のご協力に深く感謝致します。新年度におきましても引き続きご協力をお願い致します。

近年西部支部会員の昇段昇格者が低迷しています。受審しても普段の稽古の結果が思うように出せないのが実状かと思えます。支部の講習会も三・四段と二段以下に分け実施していますが、各種講習会でご指摘いただいたことや得られた情報を大いに活かし、今後も引き続き稽古に励んでいただき一人でも多くの方が昇段昇格されるようお願いしています。

<競技・講習会>

●西部高校生選手権大会

平成 27 年 11 月 28 日（土）所沢市民武道館
参加 110 名（参加高校 4 校）○団体の部：①所沢北高校 B チーム（内海隆太・中川幸紀・工藤康博）②所沢商業高校 A チーム（川本航大・美留町武嗣・武田由麻）③慶応志木 F チーム（宇津木彬人・石関雅人・坂原悠斗）○個人の部：①中川幸紀（所沢北高校）②川本航大（所沢商業高校）③田澤功輝（所沢北高校）

●納射会

平成 27 年 12 月 6 日（日）所沢市民武道館
参加 124 名
○三段以下の部（参加 35 名）①村上 隆（上福岡）②宮本紗織里（朝霞）③中根幸二（所沢）○四、五段の部（参加 47 名）①竹下 眸（所沢）②青砥勤（新座）③藤原敬一（所沢）○称号の部（参加 42 名）①室町純子（志木）②粕谷吉一（所沢）③橘 秀光（三芳）○総合優勝、室町純子（志木）

●初射会

平成 28 年 1 月 24 日（日）所沢市民武道館
参加 114 名
①三浦良子（上福岡）②野瀬武博（富士見）③関

口二郎（所沢）

●総会射会

平成 28 年 3 月 26 日（土）所沢市民武道館
参加 82 名

①簡野肇平（新座）②大塚 進（朝霞）③加藤良子（大井）

●第 4 回支部講習会（三・四段）

平成 27 年 10 月 17 日（土）朝霞市弓道場
参加 40 名、講師：根本武次郎教士、吉本かをる教士

内容：基本体の説明と範示および実習、1 手審査行射、射技指導、全体講評。

●中西部指導者特別講習会

平成 27 年 10 月 25 日（日）所沢市民武道館
参加 45 名、講師：玉之内 淳教士、本橋民夫教士

内容：受講者による矢渡し及び講評、持的射礼と指導、講話、一つの射礼と指導、全体講評。

●第 5 回支部講習会（三・四段／二段以下）

平成 28 年 2 月 7 日（日）

○三・四段：大井弓道場

参加 56 名、講師：市川政子教士、池谷 茂教士
内容：一手行射、肌脱ぎの実習（池谷先生）、模範演武（市川先生）、その後、射技指導。

○二段以下：三芳町弓道場

参加 37 名、講師：森川寛人教士、青田 昇教士
内容：体配の説明と範示、1 手行射、講話、射技指導、全体講評。

●支部高校生春期講習会

平成 28 年 3 月 29 日（火）所沢市民武道館
参加 46 名、講師：浅野有三教士、森川寛人教士、吉本かをる教士

内容：基本体の説明と範示および実習、1 手行射、射技指導、仕上げの行射、全体講評。

●支部特別講習会

平成 28 年 4 月 2 日（土）・3 日（日）所沢市民武道館 参加 89 名、講師：小宮栄子範士
内容：錬士六段以上一つの射礼、五段・錬士五段持的射礼および肌脱ぎ櫛かけ実習、個人指導および講話、全体講評。



中 部 支 部

支部長 鳶田 富男

中部支部の顔

支部長 鳶田 富男

全日本弓道選手権大会の出場選手として活躍されている、お二人の先生の弓歴とご精進を紹介いたします。皆様の弓道稽古の糧としてください。

市川 政子 教士七段 (入間市弓道連盟)

①弓道を始めたきっかけ、弓歴は？



中学校に入学し、珍しさに引かれ弓道部に入部、真面目に練習に励みました。卒業後は辞めてしまい、昭和55年秋から所沢市

初心者教室に参加し再開。故金子登先生の下で、基本からやり直しました。

②これまでに苦しんだり悩んだりしたことは？

五段の頃から故橋田栄次先生に師事、初めに「胸をおろせ」「腕のバネを使え」と言われ、当時は理解するのに時間がかかりました。それまでは「会」を保つことくらいしか意識していなかったのです。その後は呼吸や弓手についても考えるようになりました。

現在は手の内、会の充実が上手く出来ず苦労するところです。範士の先生方から指導を受け、色々やってはみますがまだまだです。

③現在、行射の中で大切にしていることは？

縦線の構成と弓手の働きです。縦線は足底から首筋まで、行射中、常に意識しています。弓手は、肩肘の筋骨をどう使えばしっかりするのか、練習では1射ずつ確認し引いています。そして体配、楷書で行うのは勿論ですが、女性として柔らかな体配が出来ればと思っています。

吉澤 喜芳 教士七段 (啐啄道場)

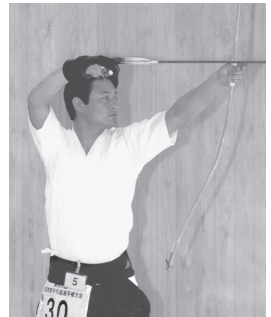
①弓道を始めたきっかけ、弓歴は？

私が弓道を始めたのは、川越農業高校(現在川越総合高校)に入学してからです。中学生の頃の友達が5人も弓道部に入部したので、私もつられて入部しました。高校時代は月に2回程度、東京の窪田道場に通り故窪田真太郎範士と

窪田史郎範士にご指導をいただいていた。

弓道部では顧問兼監督の影山一先生にお世話になりました。

その後、東京農業大学に入学し弓道部に入部。卒業後、就職した会社の勤務地が仙台であったため宮城県の故菊池慶孝範士に、そして現在は埼玉連の先生方にご指導をいただいています。



その後、東京農業大学に入学し弓道部に入部。卒業後、就職した会社の勤務地が仙台であったため宮城県の故菊池慶孝範士に、そして現在は埼玉連の先生方にご指導をいただいています。

②これまでに苦しんだり悩んだりしたことは？

うまく行かなくて悩んだことは数えきれないほどあります。自分で克服できそうもない時は加藤亮先生と一緒に考えて下さいました。

③現在、行射の中で大切にしていることは？

私は特に、難しいことをしないようにしています。困った時は基本、迷った時は簡単な方を選択しています。

昨年父が他界しました。受け継いだ農業も手を抜かず、弓道も頑張っていきたいと思っています。

<競技・講習会>

●第15回支部高校弓道大会

平成27年11月3日(火)

日高アリーナ弓道場 参加543名

□団体男子①川越E(杉田、武田、菅沼)②川越総合A(荒木、佐藤、前原)③西武文理B(松浦、勝呂、森田) □団体女子①滑川総合C(石川、田村、村田)②川越女子C(音嶋、大島、吉永)③農大三A(鷲見、益子、鈴木) □男子個人①杉田(川越)②菊池(滑川総合)③関根(農大三) □女子個人①音嶋(川越女子)②岩本(川越南)③林田(滑川総合)

●支部納射会

平成27年12月13日(日)

日高アリーナ弓道場 参加119名

□四段以下①齋藤(坂戸)②古茶(飯能)③国分(日高) □五段以上①西崎(入間)②安野(小川)③堅木(川越)

●支部初射会 兼 昇段・昇格者祝射会

平成28年1月17日(日)

日高アリーナ弓道場 参加133名

□昇段・昇格者 教士/新美(飯能)高木(狭山)六段/安野(小川)錬士/坂東(毛呂山)北村(毛呂山)三浦(日高)田村(狭山)保科(東松山)五段/7名

□入賞者①西崎(入間)②水岡(狭山)③三浦(日高)

●支部評議員会射会

平成28年3月27日(日)

川越市運動公園弓道場 参加56名

□入賞者①沼倉光広(日高)②安野雄次(小川)

③国分菊雄(日高)

●第20回中部・西部指導者講習会

平成27年10月25日(日)

所沢市民武道館弓道場 参加45名

講師:本橋民夫、玉之内淳各先生

●第4回支部講習会(四段以下)

平成28年2月7日(日)

入間市武道館弓道場 参加47名

講師:玉之内淳、鳥田富男、水岡 勇各先生

弓道懐旧談 第4回

奇跡の継ぎ矢尻

中部支部顧問 玉之内 淳

的に中った甲矢に乙矢が突き刺さる継ぎ矢は、時に写真入りで弓道誌に紹介されることがある。

今日まで何万射引いたかは定かでないが、継ぎ矢の経験はない。筈に中り、筈の巻き糸が切れて、籠(の)が開花の如く見事に割れ、継ぎ矢寸前という経験はあるのだが…。

平成9年の正月のある日のこと。

飯能市下加治の土屋裕保氏新築道場、新築祝いを兼ねての初射会の時の珍事は継ぎ矢尻。

大前は大鳥の矢を持つ西部支部長の手島教士。

甲矢が見事に中黒十時あたりに的中!

一立ちが終って矢をあげて見ると甲矢の矢尻が、無い。

次の次の立ちの大前は中部支部長の私。先輩の名射に負けてなるものかと、迷射一発!的中!前の立ちの片居木栄一教士がやや興奮の面持ちで矢取りから戻る。

「やあつ、奇跡だ!」と片居木教士。

一同一点を凝視。なんと大前で引いた中部支部長(私)の矢尻に、最初の立ちの大前で的中した手島西部支部長の矢尻がピタリッと納まっているのではないかと…。

一同この珍事にびっくり仰天。

これほどの珍事にもかかわらず写真記録がな

いこともまた珍しい。しかしこの事実は全参加者の認めるところ。また、埼玉県弓道連盟の「創立50周年記念誌」257頁に小山政之助氏の紹介で掲載済みである。

ところで、その奇跡率は?

矢尻の直径を1cmとして、その断面積は約0.79cm²。直径36cmの的の表面積は約1017cm²。算数的な単純計算でも、的内で矢尻の重なる確率は約1288分の1となる。

しかし他の諸条件、例えば矢の飛ぶ角度や矢勢等を考慮すれば、継ぎ矢尻の確率は限りなくゼロに近づく。

という訳で、この事実はまさに奇跡といっても過言ではあるまい。

道場の新築とあら玉の年を祝う射会において、西部支部と中部支部の日頃の和が具現化されたということが、極めて味なるミソである。

めでたし、めでたし!



イラスト:松本 正画

編集後記

新年度を迎え、会員の皆様も新たな気持ちで弓道に精進稽古されておられると思います。

今号は、ノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生を囲む座談会を特集として取り上げました。座談会の司会をしていて、先生の気さくな人柄と素晴らしい笑顔がとても印象的でした。『弓道にのめり込む』、『弓道は好きだからやれた』という先生の言葉から、研究生活に入られても、恐らく『弓道』がそのまま『研究』という言葉に替わり、ノーベル物理学賞受賞という偉業につながったと感じました。

埼弓連だよりは、今号より埼弓連ホームページに掲載します。アンケートの回答でもホームページ掲載に肯定的な意見が多くありました。『若い人への情報発信』を意識して、ネットと印刷物の相乗効果が最大になるよう、努めたいと思います。

編集委員長 千葉 公

松沢範士の弓道講座（第6回）

今回は七段以上の勉強会及び講師研修会（八段～範士八段）での講話を載せました。難解な箇所も有りますが教本のようなつもりで読んで下さい。次回は、わかりやすい身近なテーマを考えています。

弓射の心得

1. スキを作らない

この言葉は、福原十段範士が中央講習会や研修でよく口にしていた。

当時意味が良く解らず、弓道八節を手抜きなく丁寧に行射すること程度に理解していたが、その意味合いは深いものがあつた。昔の侍は、日常の生活のなかでもスキを作らないことを武士の「たしなみ」としていた。

例えば、道を歩いていた時の不意の遭遇への対応・戸障子の開閉は静かに・物を置く時、取る時は、腰を曲げずに上体をまっすぐ片膝をついてスキなく直ぐに立てるように備えて動作していた。

弓の場合は動作に息合いを持つことが大切であり、また矢の場合（弦切れ・矢こぼれ・落弓）3原則に基づく的確な処理をして無駄にならぬよう心掛ける事が大切である。



松沢範士胸像：松本 正画

2. 残身（心）について

禅心から出ているといわれ、茶道、剣道・弓道でよく用られている。

弓道は、射の総決算と言われ射品射格の現れているところ・剣道は、一撃を加えた後の反撃に備える心の構えを指す・茶道は茶の湯のすんだ後の心構えをさす。

野球の投手も投げた後、打球に備えた構えも言えることであり、踊りなども最後の形を残心と言えよう。

茶祖と言われる紹鴎が「何をして、道具置きをつける手は恋しき人分かる」と知れ、また「器物取る手は軽く、置く時は、深く思いいれあれ」と置く時の方に重点が乗っています。残心を行動に実するのです。弓道の残身は会の半分と言われ間延びしないよう注意したい。射品射格の現れるところである。

弓倒しは茶の心で静かに倒す・そしてその心掛けは普段の生活のなかでも生かして欲しい。

3. 離れは腹で切れ

会の条件は、頬付け・胸付け・矢尺・三重十文字・詰めと伸びで教本では、詰合いと伸合いは良射を生む絶対的条件と言われている。伸合いの作り方、会は息を少しづつ吐きながら（漏らす）伸びる。

吐き方は鼻から半分吐く、そして下腹部に半分落とす、腹が膨らみ硬くなる。八・九分つまりを感じたところが離れの時期、腹の爆発を感じる。

福原先生が受講生1名に棒矢をとおして腹を合わされ実際の効果を見せた事あり。

4. 歩行について

道場内の歩行の際に後ろ足の踵の上がる人が目立つ、体は両足の真ん中に置くとともに後ろ足の踵が上がりぬよう注意する。

また、歩行の息合いは入場から本座までは1呼吸4歩（吸って2歩・吐いて2歩）

本座から射位までは1呼吸2歩となるので当然入場から本座まではテンポは速くなるはずだが殆ど同じ速度に見受けられる組あり。

